

理科(物理・化学・生物・地学) 京都大学 (前期)

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

記述・論述・描図・選択・マーク

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

設問数がやや増加したため、計算量が多くなり、昨年度より得点しにくくなった。

出題の特徴

設問の多くは空所補充で、一部に問形式を含む。受験生にとって目新しい問題を、誘導に従って解いていかなければならない。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	空所補充・問形式 (記述・論述)	力学 (放物運動・円運動)	物理	問1以外の設問は、計算を確実に進めていけばよい。問1は方針は立てやすいが、計算量が多いので注意。	標準
II	空所補充・問形式 (記述・論述)	電磁気 (電磁誘導・はしご型回路)	物理	無限回路網の考え方を問題文からきちんと読み取って、適切に解答していかなければならない。	やや難
III	空所補充・問形式 (記述・選択・描図・論述)	熱 (理想気体とゴムの状態変化)	物理	ゴムヒモについても、気体に関する熱力学第一法則と同様なエネルギー保存則が成立することに注意して、解き進めていけばよい。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 基本事項を正確に把握する。
2. 題意を正しく把握するための読解力を養う。
3. 図を用いて状況設定を正しく把握する習慣を身につける。
4. 正確で迅速な計算力を養う。